SUNPOT

サンポット
石油温風暖房機

取扱説明書

FF-287CTS

お客様ご自身による工事は危険です。据付工事は専門業者や販売店にご依頼ください
（暖房機を移動する場合も同じです。）

●このたびはサンポット石油温風暖房機をお買いあげ頂きまして、まことにありがとうございました。
●お使いになる前に必ずこの取扱説明書を最後までよく読んで、正しくご使用ください。
●保証書はお買いあげの販売店から必ずお受けとりのうえ、［取扱説明書］とともに大切に保管してください。

サンポット株式会社

目　　　次

頁

１　特に注意していただきたいこと　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２　各部の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

３　設置の点検・確認と運転準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

４　運転方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

５　安全装置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

６　日常の点検・手入れ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

７　定期点検　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

８　故障、異常の見分け方と処置方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

９　保証とアフターサービス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

10　石油温風暖房機仕様　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

1. 特に注意していただきたいこと

本機を正しく安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。
危険、警告、注意に区分して説明してあります。

危険　取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じる場合

給排気筒の接続異常や詰まり

給排気筒が正しく接続されているか、給排気トップ先端部がふさがれていないか確認してください。ふさがれていると運転中に排ガスが室内に漏れ、一酸化炭素中毒の原因になります。

警告　取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

燃料、電源の確認

機器の装置銘板に表示してある「燃料・電源」と使用燃料および使用電源が一致しているか確認してください。

可燃物近接禁止

設置や移動のとき可燃物（家具・壁・カーテン等）に近づけないでください。火災の原因になります。

衣類の乾燥禁止

衣類などの乾燥に使用しないでください。衣類が落下して火がつき火災の原因になります。

自分で移動・再設置禁止

自分で移動・再設置はしないでください。移動・再設置が必要な場合は、販売店にご相談ください。

	電源コードたこ足配線禁止 電源コードは、破損させたり途中での接続、延長コードの使用、他の電気器具とのたこ足配線をしないでください。 感電や発熱・火災の原因になります。
	電源プラグの抜き差し禁止 電源プラグの抜き差しによる機器の運転や停止はしないでください。 感電や火災の原因になります。
	電源プラグのほこり厳禁 電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、がたつきのないように刃の根本まで確実に差し込んでください。ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は感電や火災の原因になります。
	異物を入れないで 暖房機の内部には、紙、布、石などの異物を入れないでください。 火災や感電の原因になります。
	接地工事 アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
	可燃性ガス危険 可燃性ガスが発生するもの（スプレー・ガソリン・ベンジン等）を使用している場所や置いてある場所では、絶対に使用しないでください。 引火して危険です。
	火をつけたままの就寝、外出禁止 火をつけたままの就寝や外出は絶対にしないでください。 予期せぬ事故の原因になります。
	異常時使用禁止 煙、におい、すすの発生など異常を感じたときは、速やかに暖房機の運転を停止させてください。 運転を継続すると事故や火災の原因になります。

	注意　取扱を誤った場合、使用者が損害を負う危険な場合、および物的損害の発生が想定される場合
	特殊な場所での使用禁止 暖房機は居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。 化学薬品などの影響により不完全燃焼や故障の原因になります。
	高地注意 標高1000m以下でご使用ください。それをこえて使用する場合はお買い求めの販売店にご相談ください。そのまま使用しますと、空気不足となり、不完全燃焼の原因となります。
	異常時使用禁止 万一、異常を感じたときは使用しないでください。 異常燃焼の恐れがあります。
	積雪に注意 積雪の多い地方では給排気トップが雪でふさがれないよう注意してください。排ガスを吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。
	温風に注意 温風を長時間、直接身体にあてないでください。脱水症状になったり、低温やけどの原因になります。 特に、体力のない病人、乳幼児、お年寄りには、まわりの人が注意してあげてください。
	高温部に注意 燃焼中や消火直後は高温部に手など触れないように注意してください。やけどの恐れがあります。特に、お子さまを暖房機に近づけないでください。
	物を上にのせないで 暖房機本体の上には、花瓶など液体の入った容器をのせないでください。水が内部に浸透して電気絶縁が劣化して漏電や感電の原因になります。
	水洗い・濡れた手に注意 機器の水洗いや濡れた手でスイッチ・電源プラグの操作をしないでください。感電の原因になります。

<table>
<tr><td></td><td>電源コンセント
機器の電圧降下防止のため、単相100V専用の回路を設けてください。</td></tr>
<tr><td></td><td>雷時の注意
落雷の恐れのあるときは使用を中止し機器の電源コードをコンセントから抜いてください。</td></tr>
<tr><td></td><td>電源プラグは持って引き抜く
電源プラグは必ずプラグを持って引き抜いてください。電源コードを引っ張って抜くと芯線が断線し発熱・発火の原因になります。</td></tr>
<tr><td></td><td>清掃時の注意
掃除をするときは必ず運転を停止して電源プラグを抜いてください。運転中は内部で送風機が高速で回転していますのでけがの原因になります。</td></tr>
</table>

２． 各部の名称

2-1　外観

転倒防止金具
吹出ルーバ
操作パネル
バーナ点検扉
エアーフィルタ
感震器扉
排気管
給排気トップ
油配管接続口
背面エアーフィルタ
給気ホース
電源コード
（２ｍ）
アース端子

2-2　操作パネル詳細

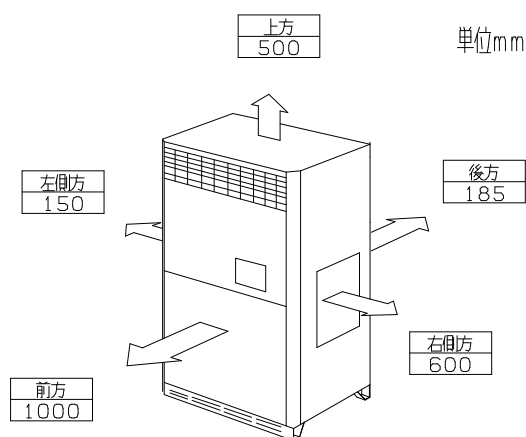
デジタル表示
室温及び設定温度または時計を示します。
表示灯
室温・設定が点灯の場合はデジタルの左側は室温を、右側は設定温度を表示します。
時・分が点灯の場合はデジタルの左側は時を、右側は分を表示します。
運転/停止スイッチ
運転切替で表示されている項目が運転または停止します。
表示灯
運転：運転停止スイッチが運転中の場合に点灯します。
燃焼：暖房運転時、バーナが燃焼中に点灯します。
運転切替スイッチ
暖房運転と送風運転の切替を行います。
表示灯
暖房：点灯中は暖房運転ができます。
送風：点灯中は送風運転ができます。
風量切替スイッチ
送風運転の時に、風量を切り替えるスイッチです。
表示灯
強：送風が強運転になります。
弱：送風が弱運転になります。
表示切替スイッチ
表示されている項目がデジタル部に表示されます。
表示灯
温度：点灯中はデジタル部に室温及び設定温度が表示されます。
時計：点灯中は時刻が表示されます。
予約：点灯中はタイマー運転の運転開始時刻が表示されます。
オートスイングスイッチ
吹出口の縦フィンが左右にスイングします。
表示灯
作動：点灯中はオートスイングスイッチ運転状態です。
タイマー運転スイッチ
タイマー運転の予約または解除を行います。
表示灯
予約：タイマ運転の予約が完了したとき及びタイマ運転中に点灯します。
設定スイッチ
△を押すと設定温度または時間の数値が上がります。
▽を押すと設定温度または時間の数値が下がります。
1回押すと数値が1つ変わり、押し続けると連続で数値が変わります。
室温
時
設定
分
88
88
運転
燃焼
運転/停止
暖房
送風
運転切替
強
弱
風量切替
温度
時計
予約
表示切替
作動
オートスイング
予約
タイマー運転
▲設定▼

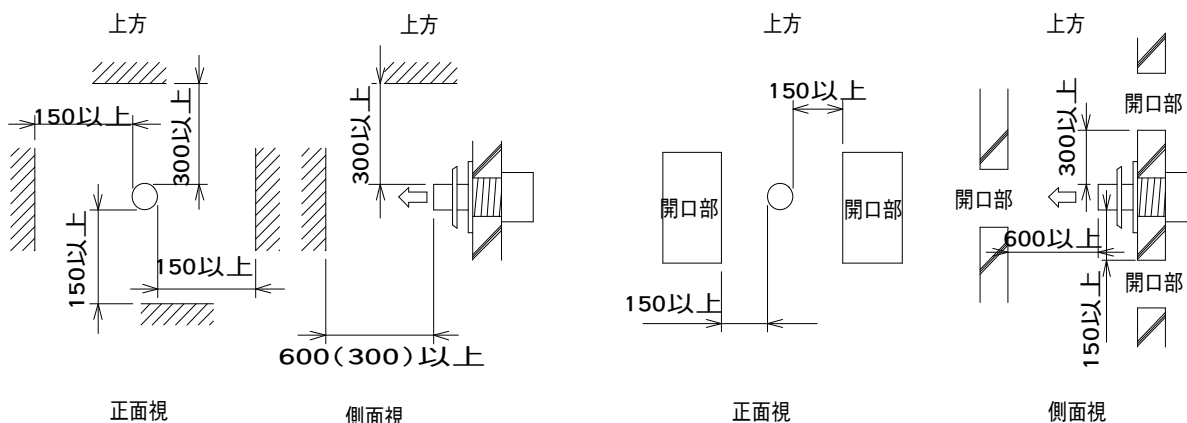
3. 設置の点検・確認と運転準備

3-1 設置の点検・確認

お使い頂く前に、正しく設置されているか確認してください。
正しく設置されていないと火災や不完全燃焼を起こす可能性があります。
不的確な部分があれば、販売店若しくは工事店に処置を依頼してください。

［本体廻り］

◇床面に傾斜などなく、安定した場所に確実に固定されていること。
◇暖房機が転倒防止金具で、確実に固定されていること。
◇火災予防上の所定の距離が十分にとれる場所に設置してください。
防火構造の構造物であっても、給排気筒やバーナ等の点検・手入れ等ができるように、サービススペースが必要ですので、火災予防上安全な距離及びサービススペースを確保するために、最小限下図に示す距離を確保してください。

［給排気筒廻り］

◇給排気筒の総延長が3m3曲がり以内であり、確実に接続されていること。
◇給排気筒トップが屋外に取り付けてあること。
◇給排気筒トップが、子供の遊び場や人通りの激しい場所へ飛び出さないように取り付けてあること。
◇給排気筒トップが、集合煙突の中に取り付けていないこと。
◇給排気筒トップが、床下や天井裏に取り付けていないこと。
◇給排気筒トップが、外に向かって下り勾配で取り付けてあること。
◇カーテン等の可燃物が給排気筒に接触していないこと。
◇給排気筒の周囲に、引火物や危険物がないこと。
◇給排気筒トップが周囲と火災予防上の所定の距離を確保した位置に設置してあること。また、窓や換気口等から規定の距離を確保した位置に設置してあること。

但し（　）寸法は、防熱板を取り付けた状態とする。　　　　単位mm

[電気配線廻り]

◇使用電源が、銘板に表示してある電源と合致すること。
◇専用回路から電源を取っていること。たこ足配線をしていないこと。
◇接地工事が確実に行われていること。

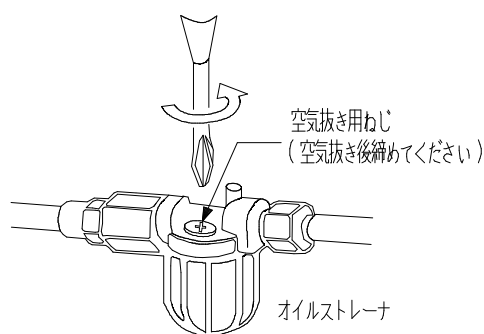
[燃料]

◇灯油（JIS 1号灯油）を使用していること。
◇変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。
点火、消火しにくくなったり、燃料が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。

[給油]

◇給油は暖房機を消火してから行ってください。
①油タンクの送油バルブを閉める。
②油タンクの給油口ふたを外し、給油する。
・油量計の表示が「満」の位置以上には絶対に入れないでください。
・給油の際に、水やゴミなどを入れないよう注意してください。
③給油口ふたを確実に閉める。
④こぼれた灯油はよく拭き取る。

[空気抜き]

◇オイルストレーナ部の空気抜き用ねじで空気抜きをしてください。

[燃料配管廻り]

◇油漏れがないこと。
◇本体間近に燃料コックが設置されていること。

3-2　運転前の準備と確認

設置の確認が終わりましたら、次の手順で運転の準備を行ってください。
①電源プラグをコンセントに差し込んでください。
②燃料（灯油）の元栓を全開にしてください。
③エアフィルターが正しく取り付けているか確認してください。

4．運転方法

4-1　暖房運転

次の手順で運転してください。
集中制御システムや遠隔制御をご使用の場合は、それらの外部機器から運転動作を行ってください。

○運転手順

①「運転切替」ボタンを押して、「暖房」に合わせてください。
◇暖房ランプが点灯している場合はそのままにしてください。

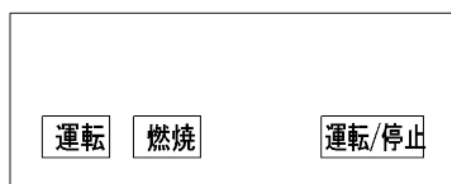
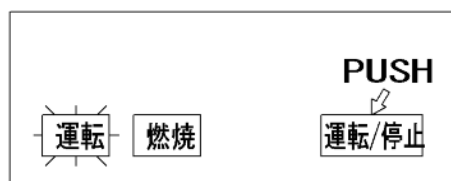
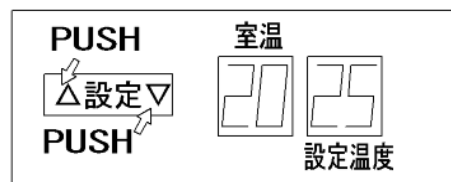
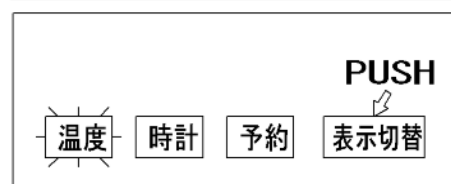
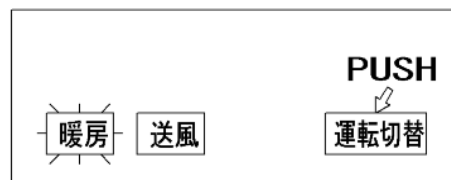
②「表示切替」ボタンを押して、「温度」に合わせてください。

③「△設定▽」ボタンを押して温度を設定してください。
◇デジタル表示部の左側は現在の室温を、右側は設定温度を表します。
◇設定できる温度の範囲は0～30℃です。
◇設定温度の表示がお好みの温度であれば、そのままにしてください。
◇電源が切れても設定温度は記録されていますので、改めて設定する必要はありません。

④「運転/停止」ボタンを押してください。
◇「運転」ランプが点灯し運転を開始します。
◇バーナファンのみの運転が20秒間継続し燃焼炉の掃気を行います。

◇着火と同時に「燃焼ランプ」が点灯します。
◇着火から約60秒後に送風機が運転を開始し吹出口から温風が出始めます。
◇暖房機は設定された温度を保持するように自動運転を行います。

○停止手順

①「運転/停止」ボタンを押すだけです。
◇暖房機はすぐに燃焼を停止し「燃焼ランプ」が消灯します。
◇暖房機は冷却運転を行います。送風機は約60秒間、バーナファンは120秒間運転を継続します。この間「運転ランプ」は点滅します。
◇冷却運転終了後、暖房機は全停止し「運転ランプ」は消灯します。

4-2　送風運転

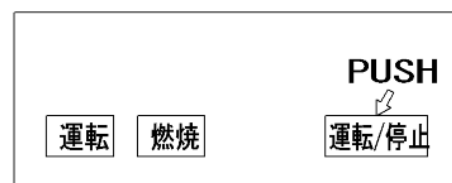
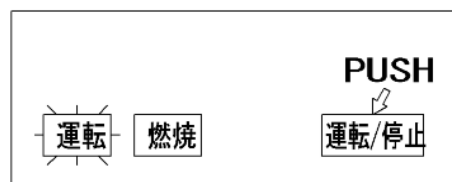
次の手順で運転してください。
集中制御システムや遠隔制御をご使用の場合は、それらの外部機器から運転動作を行ってください。

○運転手順

①「運転切替」ボタンを押して、「送風」に合わせてください。

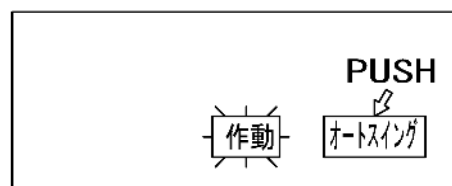
②「運転/停止」ボタンを押して下さい。
◇「運転」ランプが点灯して、運転を開始します。

○停止手順

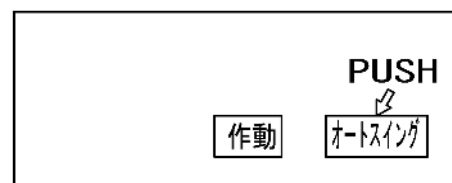
①「運転/停止」ボタンを押すだけです。
◇「運転」ランプが消灯して、運転を停止します。

4-3　風向きを変える（オートスイング）

この暖房機は、吹出口の縦フィンをルーバモーターで動かして、風向きを変える(左右にスイングさせる）機能が装備されています。

○運転手順

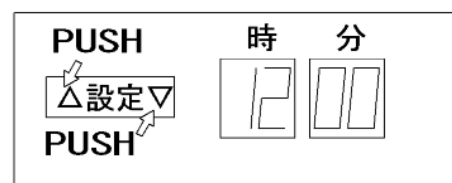
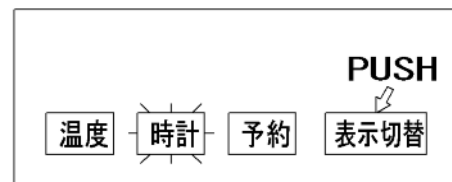
①「オートスイング」ボタンを押してください。
◇「作動」ランプが点灯して、作動を開始します。
◇作動は送風機が運転しているときのみです。

○停止手順

①「オートスイング」ボタンを押すだけです。
◇「作動」ランプが消灯し、運転を停止します。
◇縦フィンの動きを見て、お好みの位置で停止させてください。

PUSH
作動
オートスイング

4-4　時刻を合わせる

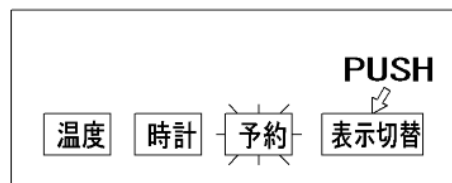
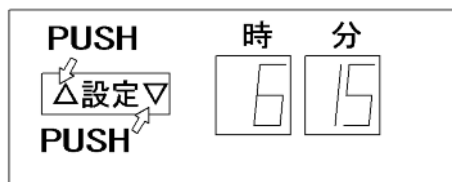
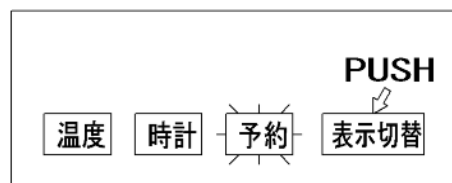
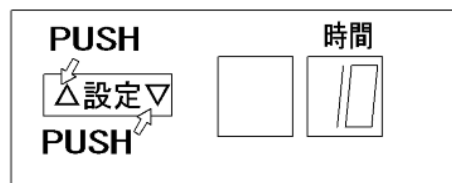
この暖房機はタイマー運転ができます。そのためには予め時刻を合わせる必要があります。次の手順で行ってください。

①「表示切替」ボタンを押して、「時計」に合わせてください。

②「△設定▽」ボタンを押して、時刻を合わせてください。
◇「△設定▽」ボタンは押し続けると、ハイスピードで時刻表示が変化します。
◇時計用電源は充電式です。停電しても12時間作動し続けます。

4-5　タイマー運転

タイマー運転をセットする場合は、予め時刻合わせを行ってください。
運転開始の時刻と自動運転する延べ時間の予約ができます。
予約は24時間に1回だけでき、延べ時間の最大は10時間です。
次の手順で行ってください。

○運転手順

① 「表示切替」ボタンを押して、「予約」に合わせてください。

② 「△設定▽」ボタンで、運転開始時刻をセットしてください。

③ 「表示切替」ボタンを押してください。

④ 「△設定▽」ボタンで運転開始から停止までの延べ時間をセットしてください。
◇1～10時間の間で、1時間単位でセットできます。

⑤ 「タイマー運転」ボタンを押してください。
◇これで予約が完了です。「予約」ランプが点灯します。確認してください。「予約」ランプはタイマー運転が終了するまで点灯し続けます。

○予約の解除

① 「タイマー運転」ボタンを押すだけです。
◇「予約」ランプが消灯し予約が解除され、通常の運転が可能になります。タイマー運転中でも解除可能です。

◇予約が完了すると、通常の運転はできません。予約の解除を行う必要があります。
◇予約は1回の運転分しかできません。その都度予約する必要があります。
◇ただし、運転開始時刻と延べ時間は記憶されていますので、同じ時間帯の運転を希望する場合は、「タイマー運転」ボタンを押し、「予約」ランプを点灯させるだけです。

5. 安全装置

5-1 安全装置

暖房機に何らかの異常が生じたとき、自動的に運転を停止する装置です。

5-2 表示内容と処置のしかた

安全装置が作動したときは、「操作パネル」にその内容が表示されます。
下表に表示内容、作動安全装置、必要な処置を示しますので、何か表示されたときは、必要な処置を取ってください。
不具合の原因を取り除き、「運転／停止」 ボタンを押すと作動が解除されます。

表示内容	作動安全装置 及び不具合内容	原因及び必要な処置
E-01	炎検出装置 ・不着火	エアー抜き不足、燃料切れ、あるいは炎検出器の汚れ 原因を取り除き、点火操作をしてください。
E-02	炎検出装置 ・燃焼中消炎	エアー抜き不足、燃料切れ 原因を取り除き、点火操作をしてください。
E-04	対震自動消火装置 ・震度約5以上の強い地震や衝撃をうけた	本体及び燃料配管から燃料漏れがないか点検する。 本体の周辺、給気ホース、給排気筒トップに異常がないか確認して対震自動消火装置をセットして点火操作をしてください。
E-06	炎検出装置 ・擬似火炎又は炎検出器異常	点火前に擬似火炎を検出した。 お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-07	炎検出装置 ・電磁弁異常	運転停止操作後、直ちに火が消えない。 お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-08	室温用サーミスタ ・室温異常上昇（50℃以上）	吹出口の前に遮へい物がないか確認してください。 直らない場合は、お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-09	室温用サーミスタ ・室温-20℃以下	室温が-20℃以下 室温が上がっても直らない場合は、お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-10	ファンコントロール用サーミスタ過熱	エアーフィルター目詰まり、吹出口閉塞 原因を取り除き点火操作をしてください。
E-11	燃焼空気温度用サーミスタ ・燃焼空気温度-30℃以下	燃焼空気温度が-30℃以下になった。 お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-12	電源監視機能 ・電源異常	停電、異常電源降下 お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。

E-13	バーナファン回転監視機能 ・バーナファン回転異常	お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-14	過熱 ・ハイリミットスイッチ	お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-15	機種設定監視機能 ・機種未設定	お買い求めの販売店に点検修理をご依頼ください。
E-16	送風機運転時間監視機能 ・エアーフィルター目詰まり	エアーフィルターを点検、清掃してください。 ○点検、清掃のしかた 暖房機の運転を停止させ、送風機が完全に止まってから行って下さい。送風機は高速で回転していますので危険です。 ※エアーフィルターの取り外し方は、5-3参照 ※（注）参照

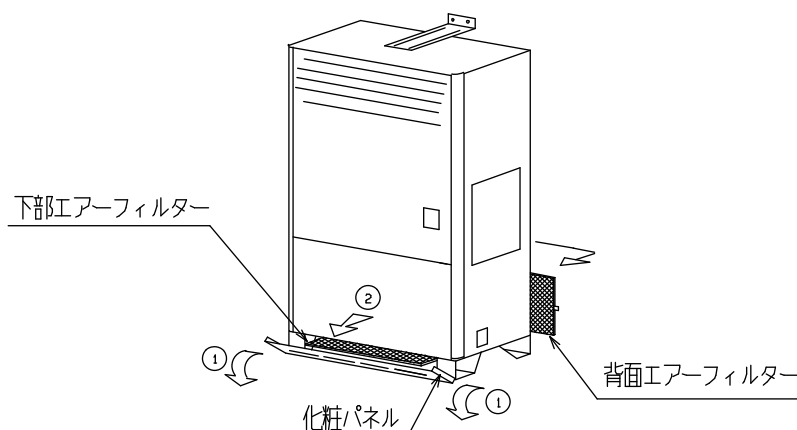
（注）エアーフィルター目詰まりについて

送風機の運転時間が積算で所定の時間に達するとエラー表示「E-16」を表示し運転が停止します。その際、エアーフィルターを点検清掃し、「運転／停止」スイッチを押してリセットしてください。
フィルター目詰まりの積算時間は120時間、480時間を基板上のJP2（ジャンパピン）にて選択できますので、フィルター目詰まりの具合により120時間または480時間を選んでください。

ジャンパピンNo,	フィルターサインの積算時間
JP2の位置　No,3	120時間
No,4	480時間
No,5	積算時間無視

JP2（ジャンパピン）のNo,5は積算時間無視となりますので、利用しないでください。
フィルターの目詰まりに気付かず、過熱する恐れがあります。
●ジャンパピンの選択時には、電源コードを外して作業を行ってください。

5-3　エアーフィルターの取り外し方

（1）下部エアーフィルター
・下図①の方向に化粧パネルを外してください。
・下図②の矢印方向にエアーフィルターを引き抜いてください。
（2）背面エアーフィルター
・矢印方向にスライドさせながら引き抜いてください。

６．日常の点検・手入れ

6-1　注意事項

○必ず暖房機の運転を停止し、暖房機が冷えた状態で行ってください。
○暖房機の冷えているときに、必ず電源プラグをコンセントより抜いて行ってください。燃焼中あるいは送風機が回っているあいだは、絶対に電源プラグを抜かないでください。
○暖房機の水洗いや濡れた手でスイッチ・電源プラグの操作をしないでください。
○安全装置・送風機・熱交換器・バーナ・電気部品・燃料配管部分は分解しないでください。

6-2　点検・手入れの必要項目、時期、方法

時期	点検・手入れ項目	方　　法
シーズンはじめ	給気ホース 排気管 給排気筒トップ	○給気ホース・排気管の接続箇所が外れていないか点検します。 ○給排気筒トップ・給気ホース・排気管に錆や穴があいていないかときどき点検してください。 ○給気ホースが排気管にあたっていないか点検します。 ○室外の給排気筒トップが鳥の巣、蜘蛛の巣やビニール袋などでふさがれていないか点検します。 （別売品の給排気筒トップ保護カバーや給排気トップ用防虫網をご使用の場合はこちらも点検してください。）
使用ごと	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	○送油経路部や置台に油漏れ、油のたまり、油のにじみがないか点検します。
	周囲の可燃物、引火物	○暖房機の上や周囲、給排気筒トップの周囲に可燃物、引火物がないか点検します。
	排ガスの漏れ	○排ガスのにおいや、目がチカチカしないか点検します。排ガスが漏れていますと危険です。
	給排気筒トップ	○給排気筒トップが雪や氷でふさがれていないか点検します。ふさがれていると不完全燃焼することがあり危険です。
週に１回以上	エアフィルター	○化粧パネルを取り外し、エアフィルターに付いたほこりを掃除機などで取り除きます。 汚れがひどいときは、ぬるま湯（40℃位）に中性洗剤を溶かしゆすぎ洗いしたあと、水で洗剤をよく洗いおとしてください。

1シーズンに3回以上	電源プラグ	○電源プラグにほこりが付着していないか点検します。
給油のとき	油タンク	○油タンク内に水やごみがたまっていないか点検します。 ○油タンク内の水抜き、ストレーナ（ろ網）の清掃は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

6-3　長期間使用しないとき

シーズンが終わって次のシーズンまで長期間使用しない場合、次のような点検・お手入れを行ってください。故障箇所がある場合には、次のシーズンですぐ使えるように修理をすませておきましょう。

○エアフィルターを掃除し、十分乾かしてからもとどおり暖房機にセットしてください。
○電源プラグをコンセントから抜いてください。
○燃料の元栓は確実に閉めてください。

７. 定期点検

7-1　定期点検の実施時期

２シーズン毎に１回程度定期点検を受けてください。
ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ、温泉地域などでご使用の場合は、１シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めの販売店にご相談ください。

7-2　お申し込み先

定期点検は、お買い求めの販売店にお申し込みください。
専門の技術者が作業を行います。
安全にお使いいただくために、製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

7-3　定期点検費用

定期点検の費用についてはお買い求めの販売店にご相談ください。
定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処置内容および費用についてお客様にご相談申し上げます。

7-4　定期点検の内容

定期点検の内容	項　　　　目
設置状態、給排気まわりの点検・確認	○ 製品の設置・使用状態 ○ 給排気筒接続と詰まり ○ 給排気トップの詰まり ○ 燃焼ガスの漏れ ○ 油漏れ
安全装置および運転動作の点検・確認	○ 安全装置の動作確認 ○ 運転動作の確認 ○ 操作部品や動く部品の動作確認 ○ 表示灯の動作確認
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	○ 給排気部品・排気管接続部の点検 ○ パッキン類
製品の清掃・整備	○ 暖房機内部及び外表面 ○ エアフィルター・オイルストレーナ ○ 油タンクの水抜き

8. 故障、異常の見分け方と処置方法

8-1 すぐご連絡ください

次のような場合はただちに運転を停止し、販売店にご連絡ください

現　　　象	処　　　置
○灯油が漏れている	運転を停止し灯油の元栓を閉めてください。
○ブレーカやヒューズが度々切れる	運転を停止し電源プラグを抜いてください。
○誤って暖房機内に異物や水を入れてしまった	運転を停止し電源プラグを抜いてください。
○電源ケーブルが過熱したり、被覆に破れがある	運転を停止し電源プラグを抜いてください。

8-2 故障、異常の見分け方と処置方法

下表をもとに確認してください。処置しても直らない場合は、使用を中止してお買い求めの販売店にご連絡ください。ご自身での修理は絶対にしないでください。

現象／原因	着火しない	操作パネルが点灯表示しない	着火の時大きな音がする	いつの間にか燃焼が止まる	焦げ臭い	部屋が暖まらない	処置方法
停電している	○	○					他の電気器具で確認する
電源が入っていない	○	○					電源プラグをコンセントに差し込む
燃料の元栓が閉じている	○						元栓を開ける
燃料の種類が間違っている	○		○	○		○	使用を停止し、販売店に相談する
給排気トップの周囲に障害物がある			○	○			障害物を取り払う
操作が間違っている	○						「運転操作」をよく読む
エアフィルターが汚れている				○		○	エアフィルターを清掃する
部屋が広すぎる						○	台数不足。販売店に相談する
周囲に燃えやすいものがある					○		取り除く
吹き出し口が塞がれている				○	○	○	取り除く

9. 保証とアフターサービス

9-1 保証書

○ 保証書は販売店から必ずお受け取りください。
○ 販売店名、お買い上げ日などの記入を確認のうえ、大切に保管してください。
○ 保証期間は、お買い上げ日から1年です。

9-2 修理の依頼

○ 修理を依頼するときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容	
ご 住 所	
お 名 前	
電 話 番 号	
製 品 名	石油温風暖房機
形 式 名	FF-287CTS
お 買 い 上 げ 日	年 月 日
故障・異常の内容	できるだけ詳しく（操作パネルの表示内容：例E-01）お知らせください。
訪 問 ご 希 望 日	

○ 保証期間中は、保証書の規定に従って修理いたします。
○ 保証書を紛失しますと、無償修理期間中でも修理費を頂くことがあります。
　大切に保管してください。
○ 保証期間が過ぎているときは、販売店にご相談ください。
　修理によって性能が維持できる場合は、有料修理いたします。
○ 補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後10年です。
　性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

10. 石油温風暖房機仕様

形式の呼び		FF-287CTS
種類		圧力噴霧式強制対流形
点火方式		電気点火
使用燃料		灯油（JIS1号灯油）
燃料消費量	最大燃焼時	33.9kW（3.29L/h）
	最小燃焼時	27.1kW（2.63L/h）
発熱量	最大燃焼時	121,190kJ/h（28,950kcal/h）
	最小燃焼時	96,880kJ/h（23,140kcal/h）
熱効率	最大燃焼時	86.3%
	最小燃焼時	86.8%
暖房出力	最大燃焼時	29.1kW（25,000kcal/h）
	最小燃焼時	23.2kW（20,000kcal/h）
外形寸法		高さ1,850mm×幅1,000mm×奥行き450mm
質量		150kg
電流ヒューズ		筒形　20mm　15A　1個
電源電圧及び周波数		100V　50/60Hz
定格消費電力	燃焼運転	最大（点火時）86/83W　燃焼時380/490W
	送風運転	314/426W
給排気筒の呼び径		D 80
給排気筒壁貫通部孔径		φ135～140
排気温度		最大燃焼時　260℃以下
燃料配管接続口		φ8.0mmフレア、φ7.0mmホース継手
安全装置		対震自動消火装置、燃焼制御装置、過熱防止装置
付属品		ゴム製送油管(1)、ホースバンド(2)、木ネジ6×30(2)、オイルストレーナ(1)、本体固定金具(4)、取扱説明書(1)、据付工事要領書(1)、保証書(1)

※燃料の発熱量を以下に示す

○灯油　→　高位発熱量：8,800kcal/L、比重：0.795

サンポット株式会社

お客様相談窓口　〔受付時間：平日午前９時から午後５時まで〕
☎ 0198-37-1177　FAX. 0198-37-1192

札幌支店	〒065-0042	札幌市東区本町２条１０丁目１番２５号	☎ 011-785-1211	FAX 011-782-8262
釧路営業所	〒085-0051	釧路市光陽町８番１号	☎ 0154-22-5821	FAX 0154-32-2289
帯広営業所	〒080-0023	帯広市西１３条南１１丁目９番地	☎ 0155-22-1335	FAX 0155-28-2266
旭川営業所	〒078-8237	旭川市豊岡７条６丁目６番１０号	☎ 0166-34-8636	FAX 0166-39-2157
函館営業所	〒041-0851	函館市本通４丁目１７番２５号	☎ 0138-53-2583	FAX 0138-33-2180
仙台営業所	〒983-0034	仙台市宮城野区扇町４丁目２番４０号	☎ 022-236-3444	FAX 022-238-9416
郡山営業所	〒963-8041	郡山市富田町字音路１番地１０９	☎ 024-962-9288	FAX 024-962-9266
青森営業所	〒030-0131	青森市問屋町２丁目１８番１８号	☎ 017-738-4141	FAX 017-738-5354
秋田営業所	〒010-0914	秋田市保戸野千代田町１５番１７号	☎ 018-824-3421	FAX 018-824-3423
岩手営業所	〒025-0301	花巻市北湯口第２地割１番地２６	☎ 0198-37-1138	FAX 0198-37-1188
首都圏営業所	〒352-0001	新座市東北２丁目２４番３号	☎ 048-471-8420	FAX 048-470-1141
信越営業所	〒381-0031	長野市大字西尾張部１１１４番地５	☎ 026-252-6161	FAX 026-252-6162
大阪営業所	〒564-0053	吹田市江の木町１８番２７号	☎ 06-6337-3211	FAX 06-6337-3212
富山営業所	〒939-8212	富山市掛尾町４７９番地４	☎ 076-420-2677	FAX 076-420-2238

サンポットエンジニアリング株式会社

サービス部	〒065-0042	札幌市東区本町２条１０丁目１番２５号	☎ 011-785-1201	FAX 011-780-2338
青森ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	〒030-0131	青森市問屋町2丁目18番18号	☎ 017-738-4414	FAX 017-738-4415

サンポットホームページ　http://www.sunpot.co.jp/

事業所名・住所・電話番号は変更することがあります。あらかじめ了承願います。

ご購入（据付）年月日	年　　月　　日
ご購入店名	
	TEL

お客様へ‥‥‥おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。